

## 「もとの薬にもどして！」後発医薬品不信のその要因とは ～後発医薬品から先発医薬品への再変更を希望した患者の調査から～

(大阪府) 総合メディカル株式会社 そうごう薬局八尾店

○乾 真由美 植田 亜紀 石川 弘子

### 【目的】

調剤薬局として後発医薬品を推進する中、当薬局では、2010年1月の後発医薬品調剤率（数量ベース）は15%であったが、2010年4月には23%まで上昇した。しかしながら、この間に後発医薬品に変更した一部の患者から、「もとの薬にもどしてほしい」との申し出が相次いだ。

その変更理由が不明であったため、変更患者の背景、及び意識を調査することにより、これらの「後発医薬品不信」の要因が、患者側にあるのか、薬局側にあるのか、検討を行った。

### 【方法】

- ① 患者背景調査Ⅰ：2010年2月から4月に後発医薬品に変更した患者と、そのうち後発医薬品から先発医薬品に再変更した患者の性別・年齢・変更薬剤内容・変更薬剤数・変更前後の患者負担額の差額を比較し、これらの因子と先発医薬品への再変更の関連を調査。
- ② 患者背景調査Ⅱ：先発医薬品に再変更するまでの後発医薬品の調剤回数を調査。
- ③ 患者意識調査：先発医薬品に再変更した患者に意識調査を行い、患者背景以外の要因を調査。

### 【結果】

- ① 2010年2月から4月に新たに後発医薬品に変更した患者は239名であり、そのうち、先発医薬品に再変更した患者は15名（6%）であった。性別・年齢区分・変更薬剤内容・変更薬剤数・変更前後患者負担額の差額の因子と再変更には関連がなかった。
- ② 先発医薬品に再変更を希望した患者は、後発医薬品の使用を初回きりで断念していた。
- ③ 全員が薬局の勧めで後発医薬品に変更しており、72%が薬局からの説明に対しては「わかりやすかった」と回答した。後発医薬品に魅力を感じた点は「安さ」が55%であり、先発医薬品に再変更した理由は「効果減弱」27%「副作用様症状」18%「なんとなく不安」55%であった。それらの患者の63%が「後発医薬品は2度と使いたくない」と回答し、後発医薬品に「品質」を求める傾向がみられた。

### 【結論】

今回の調査から、後発医薬品不信の要因に患者背景は関連しないと考えられた。一方、薬局の対応に不満を感じている患者はいなかったものの、先発医薬品に再変更を希望した患者は初回で後発医薬品使用を断念していた。その理由の大半が「品質」を重視する傾向にある結果から、薬局が「品質」について十分説明を行えていなかった可能性が示唆された。今後は、患者が後発医薬品に対して不信を抱かないよう、品質の同一性に重点をおいて患者説明を行っていく必要がある。